

生涯学習情報誌「ら・ら・ら」第100号 <記念号>

Life Long Learning Celebrating the 100th Issue

「ら・ら・ら」発行100号を記念して

江別市生涯学習推進協議会 会長 松山 和子

本協議会が市民の皆様へ、また活動を支えてくださっている加入の各団体の皆様へそれぞれの活動の「今」を伝える情報誌「えへつ生涯学習だより」として創刊・発行され、5号からは「ら・ら・ら」に名称を変更し、今回100号を迎える運びとなりました。

この間の紙面は内容も、構成も時代とともに変化を続けています。関わってきた、広報委員会の皆様はじめ、紙面にご協力いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

改めて振り返りますと、その内容の多彩さに感慨を深くし、今後の在り方についても指針となる先人の啓示があるように思います。カラー化から、デジタル化という波は紙の存在にも及ぶの

かとも思いますが、流動的な情報と紙媒体の情報の記憶に残るあり方は、これからの暮らしの中でも「優しい存在」として皆様の手に届くことを、願っております。また、最近の「ら・ら・ら」にはQRコードが読み取れるようになっていきます。

データで「ら・ら・ら」の内容に触れることも情報を多くの方へ伝え「生涯学習」への道の指針となるものと思えます。

「ら・ら・ら」は100号を迎えました。これからも多くの生涯学習活動を支え、伝えさらに市民の皆様のご参加により本協議会への充実、発展へつながってまいります。今までの感謝の気持ちとともに祈念いたします。



年表で振り返る100号までのあゆみ

平成 7年 4月	1号	江別市生涯学習協議会設立(会長 伊藤 貢氏) 「生涯学習だより」発行(青刷りA4 4ページサイズ) 主な連載企画:日々楽しむ生涯学習・会員プロフィール・私の宝物
平成 8年 7月	5号	「生涯学習だより」→「生涯学習情報誌ら・ら・ら」に名称変更 ～ら・ら・ら=Life Long Learningから命名～
平成 9年 4月	8号	協議会 会長 安宅嘉美氏 就任
平成11年 3月	13号	会費の徴収はじまる。自主財源活用へ
平成11年 8月	14号	協議会 会長 谷川幸雄氏 就任
平成13年 8月	20号	連載「私の宝物」から「マイブーム」へ ～27号まで続く～
平成13年10月		協議会加盟団体向けアンケートの実施:情報誌「ら・ら・ら」について 必要? 「必要-74%」・読みますか? 「毎月又は時々読む」83%
平成14年 3月	22号	協議会ホームページ できる
平成16年 9月	29号	連載企画「会員イベント情報」コーナー開始
平成18年 3月	36号	3月36号、9月37号続けて「自治会回覧号」発行
平成19年 8月	41号	連載企画「こんにちは♪」(41号～60号と69号まで)
平成21年 9月	50号	「生涯学習情報誌ら・ら・ら」50号発行
平成22年 7月	53号	誌面リニューアル 表裏面がカラー刷りとなる
平成23年10月	58号	連載企画「ミニ手話」コーナーはじまる(現「手話をまなぼう」)
平成26年 8月	69号	誌面リニューアル A4サイズ→A3サイズへ 表面はカラーページになる
平成27年12月	74号	「協議会20周年記念特別号」(A4横8ページ)発行
平成28年10月	77号	「自治会回覧号」(A4サイズ)発行 ～協議会のこと、フェスティバル告知など掲載～
平成29年 3月	79号	協議会ホームページ リニューアルする
平成30年10月	85号	連載企画「まなぼう」はじまる ～会員団体の特徴ある紹介記事としてスタート～
平成30年12月	86号	連載企画「手話をまなぼう」コーナーにて、初QRコードを掲載、 動画を観ることができるようになる
令和元年 7月	88号	「自治会回覧特別号」発行 ～総会終了、役員紹介、ら・ら・らフェスティバル案内記事掲載～
令和3年 8月	95号	谷川会長から松山和子会長へバトンタッチ 誌面リニューアルA3サイズ両面カラーとなる
令和4年12月	100号	⑩「100号」発行

ら・ら・らの
バックナンバー
(1号～99号)
過去の「ら・ら・ら」は
こちらの
QRコードから
ご覧になれます。



令和4年度視察調査結果報告

視察調査を終えて

総務委員長 齊藤 徹

本協議会では、生涯学習においてさまざまな取り組みをしている近隣地域の視察調査を毎年実施しています。今回も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため半日の行程で、協議会会員団体の皆さん22名が貸切バスで札幌市生涯学習センターを訪問しました。当センターは、地下鉄宮の沢駅そばに立地、2000年にオープンした市全体の生涯学習の中核施設です。他の関連機能との複合公共施設(延べ床面積約2万㎡)として、「かえりあ」と呼ばれています。

エントランスホールの6階吹き抜けの大空間の両側に、多目的ホール、メディアプラザ(図書室、各種スタジオ(4室)、サークル活動室(5室)各種研修室(大小10室)、映像スタジオ、陶芸室、講堂があり、自由に利用できる交流学習コーナー、ポランテシアのための諸室なども見学して、大規模で充実した施設内容に目を見張りました。

毎年開催のちえりあフェスティバルとサークル発表会、さっぽろ市民力レゾの企画・運営を行う学習ポランテシアによる企画講座や、広報誌の発行などの活動の説明をセンター職員からいただき、私たちの今後の生涯学習活動に大いに参考となったのではないかと思います。



令和4年度 生涯学習リレー講座 「江別を知るタイムトラベル」

令和4年9月2日、9日、16日の3週にわたって生涯学習リレー講座が開かれました。今回は、第2、3回目の講座内容について紹介します。

講座2 「開拓と土づくり」

講師 株式会社ナラ工業 代表取締役

NPO法人えへつ協働なつとわーく 理事長 奈良 幸則 氏



暗渠排水と気候変動対策等の話では、暗渠排水には作物の収量を上げる効果などのほか、土中に酸素を送り込むことにより温室効果の高いメタンの生成を抑えることもできることなどが話された。

暗渠排水は、今日でも収穫の終わった畑や田で工事が行われ、圃場の管理に重要なものとして行われています。

講師のお話は、暗渠排水については、その歴史や構造、効果、さらには地球温暖化に対する役割などについて自らの思いや調べたこと、事業を通じて得た経験などを基に語られたものでした。広い視点からのお話で、暗渠排水の認識を大きく変えることになりました。

(文責：高川 一伸)

講師の奈良 幸則(なり ゆきの)氏は、江別市のご出身で大学卒業後、札幌の設計事務所勤務されました。その後、実家の暗渠排水を主な業務とする会社に入社され、現在は、代表取締役を務める傍らNPO法人えへつ協働なつとわーくの理事長としても活躍されています。

江別の暗渠排水の歴史については、明治13(1880)年に「12戸屯田」で日本で初めて土管暗渠(実用化)が行われ、その後昭和3年に江別に農場をかまえた町村敬貴が10年かけて地元製造の土管で積極的に暗渠排水を進めたことでした。この町村農場の実績により全国で暗渠が行われるようになりまし。

米や小麦の新品種を開発し、戦前の日本の食糧増産に大きな貢献をした稲塚権次郎については、講師の父が、戦後石川県で土地改良事業に取り組んでいた稲塚と縁があり、トレンチャーを県に納入したとのこと。会社は現在も同県に事務所を有しています。

リレー講座2 「開拓と土づくり」講座の様子はこちらの「QRコード」からご覧になれます。



講座3 「北越殖民主社と関矢マリ子」

講師 札幌女性史研究会 前代表 西田 秀子氏

講師の西田 秀子(にしだ ひでこ)氏は島根県出身で地方紙記者などを経て、1979年に江別市に移住、以後、近現代女性史の調査・研究に従事することも札幌女性史研究会の中心メンバーとして活躍してこられました。

講演では、北海道大学の高倉新一郎教授が「模範」と評された『野幌部落史』の執筆に秘められた、関矢マリ子さんと天逝した留作夫妻の地域への愛情と波乱に満ちた生涯を女性史の視点からお話いただきました。

留作は明治38年、野幌で北越殖民主社長関矢孫左衛門と現地妻の五十嵐キヨとの間に生まれます。大正6年に孫左衛門が亡くなったため、新潟県廣瀬村並柳の関矢家に引き取られ、翌年長岡中学校に入学、その後、新潟高等学校文科、東京帝国大学農学部農業経済学科に進みます。東大卒業後は産業界調査所に入所、農業経済調査や社会運動に没頭します。

マリ子は明治43年、新潟県佐野郡北条村(現在の柏崎市)の豪農・

佐藤家に生まれ、留作とはいことになり。大正11年に柏崎高等女学校に入学し、15年に卒業しますが、多くの本を読み、社会的な問題意識をもった少女でした。

昭和4年6月、2人は見合い結婚し野幌に居住しますが、半年後の12月に留作は治安維持法違反の容疑で逮捕拘留されてしまいます。

お話は北越殖民主社の経緯から関矢留作とマリ子の生い立ちと思想形成、結婚、入獄、野幌での再起、



令和4年度 生涯学習リレー講座「えへつ市カレッジ」市民カレッジ連携講座

「江別を知るタイムトラベル」

会場/江別市民会館 2階 21号室(江別市高砂町6番地)

令和4年9月2日(金) 18:30~20:30 (先着50名/受講料無料)

講座1 「江別の屯田兵」
講師 江別市歴史資料館 館長 高田 正
講義 江別市に屯田兵がもたらした影響、屯田兵の生活、屯田兵の功績などについてお話します。

令和4年9月9日(金) 18:30~20:30 (先着50名/受講料無料)

講座2 「開拓と土づくり」
講師 NPO法人えへつ協働なつとわーく 理事長 奈良 幸則 氏
講義 暗渠排水の歴史や構造、効果、さらには地球温暖化に対する役割などについて自らの思いや調べたこと、事業を通じて得た経験などを基に語られたお話です。

令和4年9月16日(金) 18:30~20:30 (先着50名/受講料無料)

講座3 「北越殖民主社と関矢マリ子」
講師 札幌女性史研究会 前代表 西田 秀子 氏
講義 関矢マリ子さんの生い立ちと思想形成、結婚、入獄、野幌での再起、夫の遺志を受け継いだマリ子の問題意識と取り組みに及び、関矢マリ子さんの想いは西田氏の女性史研究への想いとも重なり、70名の参加者は講師の熱のこもったお話に聞き入っていました。

TEL 011-381-1062 / FAX 011-382-3434
E-mail: shougai@ebetsu.org

江別市生涯学習推進協議会 会/HPアドレス: http://shougai.ebetsu.org/生涯学習推進協議会/

これからのイベント

◆江別生涯学習インストラクターの会 (連絡先/松山:011-383-5751)

○親子で遊ぼう☆ヒントがいっぱい
日時/令和5年1月28日(土)10:30~11:30
場所/野幌公民館 和室1・2号
講師/風の子文庫副代表 片桐 亜結子 氏
参加料/無料
定員/親子10組

◆江別消費者協会 (連絡先/松下:011-381-1026)
○第49回江別消費者大会(市民カレッジ連携講座)
日時/令和5年2月7日(火)13:30~15:00
場所/野幌公民館 研修室3・4号
テーマ/「〜ゲノム編集食品って知ってますか?〜 食の安全を考えてみましょう」
参加料/無料

リレー講座3 「北越殖民主社と関矢マリ子」講座の様子はこちらの「QRコード」からご覧になれます。



(文責：園部 真幸)

夫の遺志を受け継いだマリ子の問題意識と取り組みに及び、関矢マリ子さんの想いは西田氏の女性史研究への想いとも重なり、70名の参加者は講師の熱のこもったお話に聞き入っていました。

手話をまなぼう

「好き」

「QRコード」をスマートフォン・タブレット等のQRコードリーダーで読み取っていただくと、手話の動画がご覧になります。今回は、感情の表現を伝える手話です。

2 閉じながら下に下ろします。

1 親指と人差し指を喉につけ

まなぼう Vol.17

一般社団法人 江別青年会議所 井上 剛

当団体は、20〜40歳までの青年によつて「奉仕」「修練」「友情」という三信条のもと「明るい豊かな社会」の実現を目指し活動を行っています。

自身のスキルアップを目的とした事業や地域の皆様が楽しむことのできる事業など様々な事業を企画実施しています。

生涯学習推進協議会のホームページでは、過去の各種事業の様子や、これらのイベントのスケジュールが見られます。QRコードからご覧ください。

《編集後記》

「ららら」は、めでたく1000号を発行することができました。おめでとうございます。

そこで今回は、当会発足以来27年8か月を振り返る特別号となりました。内容やサイズの様変わりしながら、加盟団体の皆様のご協力により活発な活動の様子を伝え続けた「ららら」。時の重みを感じています。この年月の中で生涯学習という学びの場を見つけることができた方がどれほどいらっしゃるのでしょうか。

次号ではこれまでの「ららら」との関わりや思い出エピソード等を載せる予定です。ぜひお声をお寄せください。これからも「ららら」をよろしくお願いたします。

西懸 昭子